

認知症対応型共同生活介護 グループホーム四丁目の家

よんちようめ通信

広報紙 No.19
2021年12月発行
社会福祉法人 泉湧く家

「家族、友人とのつながり」を大切に、外出しなくても活動的な生活を!!

四丁目の家は、池袋4丁目の住宅街にあります。1Fには「わくわく保育園」があり、子どもたちのかわいい声が聞こえる中で、「入居者も職員も、穏やかな笑顔があふれる生活と職場づくり」をスローガンとして過ごしている、高齢者のグループホームです。

コロナ禍の今、病院や介護施設では面会が出来ないところが増えています。四丁目の家では、ご家族と会えるようにしたいと考え、昨年から、感染対策を講じて面会ができるようにしました。また、現在の感染状況を踏まえ、一定の約束事を持ち、年末年始はご自宅に帰れるようにしたいと考えています。日常的にも、人混みを避けて外出できるようにしています。社会や人とのつながりを大切にしたいという思いと、皆様の安全と安心を保つために考えた取り組みです。施設に入居してからも、大切な人と過ごす時間をもてるように、これからも考えていきたいと思ます。

とはいえ、施設内で過ごす時間が圧倒的に増えています。施設の中の生活は、今まで以上に体を動かす事を意識しています。

家の仕事はたくさんあるので、皆で手分けして、大人数の食事作りやその後の食器の片づけ、洗濯物のほかにも、廊下を往復して歩いたり、体操の時間を今までより増やしています。



活動性のある生活って？

出来ることはお互いにフォローし合い、生活しています。洗濯物を干してくれる方、食事を作ってくれる方、掃除をしてくれる方、みんなに話しかけてくれる方がいます。生活歴が、その方の役割を作り出しています。喫茶店、クリーニング店、看護師さん、経理など多岐にわたる職歴、茶道・華道・踊りの師範という方々もいるので、ねりきりとお抹茶の特別なおやつ企画もあります。皆様の個性が四丁目の家を作り上げています。



有^{ゆう}備^び無^む患^{かん}

中国で三千年前の書に記述されている故事に由来する言葉で、現代日本では「備えあれば憂いなし」と言われています。言うまでも無く「普段からいざというときの準備を怠らなければ、万一の事態が起こっても、心配することはない」という意味です。

この原稿を書いている時点(11月)では新型コロナウイルス感染者数は激減しています。しかしながら次の波は必ず来ると言われています。夏の大規模感染時の出来事を忘れずに備えを行いましょう。

大規模感染時、自宅待機になった方々への食糧支援等が、間に合わない事が多くありました。食料、飲料水、衛生用品等の備蓄は震災対策にもなりますので、すでにご用意している方も在庫を見直した上で是非ご用意ください。

当法人では各施設に3日間分の備蓄を行っています。



外出の際はマスクやこまめな消毒など、感染対策を徹底し節度を持った行動で。

同時にストレス緩和も行ないましょう。

この冬はインフルエンザの流行も予測されており、気の抜けない冬になりそうです。



☆職員・介護ボランティア 募集中☆

私たちは、ご入居者様がいつまでも、この地域の中で安心して暮らしていけるように、一緒に働く仲間を募集しております。是非、お問い合わせ下さい！

03-6912-7949 担当 宮川